

黒い貴族の歴史は12世紀までさかのぼる。

その長い年月のうちに、彼らの権力と影響力は揺るぎないものとなり、特に財力は強大となった。その力がはじめて重大な影響力を示したのは、1122-26年、高潔な人物として知られるビザンチン帝国の皇帝ヨハネス・コムネヌスがベネチアの寡頭政治を打破しようとしたときだ。

そのころベネチアを支配する家々は貿易特権（独占権）をもち、それを悪用し不正な利益を得ていた。ヨハネス皇帝がその特権を拒絶したことから、戦いが始まった。ベネチアの艦隊はヨハネスの戦艦を駆逐しエーゲ海とコルフ島を手中に収め、ヨハネスに不当な特権を認めさせた。12世紀のそのやり方は、現在でもまったく変わっていない。グローヴナー家やブラガンサ家、サヴォイ家に逆らえば、どうなるかはだれでもわかる。国の要人であれ、立派な肩書きや地位を持っている人間であれ、それらの家の前にはひれ伏さざるをえない。

1155年、ベネチアの黒い貴族は貿易特権を得た—それは今でも有効だ。ベネチアを通る人々はみな高い代償を支払った。ベネチアの貴族から貿易特権を剥奪することに失敗したビザンチン帝国の皇帝は、1170年から7年間、高額の賠償金を支払っていた。イタリア・マフィアがこのベネチアの貴族たちから学んだことは多かっただろう。

(『石油の戦争とパレスチナの闇』ジョン・コールマン博士)